◎農薬の安全使用基準を守って正しく使いましょう!!　◎良質米づくりの基本は土づくりから!!

2018（平成30）年度 JA尾道市 安全でおいしい米づくり

営農販売部 (0848) 20-2811
御調営農センター (0848) 76-2242

栽培管理日誌は必ず記入し、出荷にあたっては必ず提出しましょう。

◎お米はJAへ!!　◎農作業中の事故のないように注意しましょう!!

◆JA米について◆ JAグループ広島では、19年産米から安全・安心を基本とした『JA米』に全面的に取り組んでいます。
JA米とは、3つの要件を満たし、かつJA米以外のお米と区別して、契約・検査・集荷・販売されるお米です。

★JA米の3つの要件★ 1. 毎年の種子更新又は育苗センターで購入した苗。 2. 検査機関で検査されたお米。 3. 栽培履歴及び自己点検チェックシートの記帳されたお米。

育苗の手順

塩水選
不良もみを除去する。
もち 1.08　うるち 1.13
生卵による比重液の調整
水20ℓに対し
食塩 うるち 4.2kg　もち 2.3kg 目安

水洗い
塩分を落とす。

消毒
水20ℓに対し
ばか苗病他
テクリードCフロアブル
100mℓ(200倍)
心枯線虫
スミチオン乳剤
20mℓ(1000倍)
24時間浸漬

風乾
水洗いせず1日程度陰干しし、もみの表面が白くなるまで乾かして消毒剤をよく付着させる。

浸種
・必ず停滞水で行い、水量は種籾量の4倍量で行う。
・最初の2日間は水交換しない。
・水の交換は静かに行う。
・河川、ため池等で浸種しない。

催芽
30℃の温度でハト胸状態に催芽する。
正しいハト胸 1mm

播種
播種量（1箱当り）

苗の種類（箱数）	催芽もみ	乾燥もみ換算
稚苗（2.2～2.5葉）	160～180g	130～145g

水10ℓに対し
カビ予防
ダコレート水和剤20g
(500倍)20箱分
苗立枯病予防
タチガレエースM液剤10mℓ
(1,000倍)20箱分
播種直後立枯カビ防止 0.5ℓ／箱

覆土

育苗管理
育苗器使用の場合
発芽温度28～30℃ 2～3日間とする。
温度管理に十分留意する。
緑化・硬化期
ハウス・トンネルの換気を十分に行い、過湿にしない。

種もみ量に対する薬液・水の量の目安

籾付面積の目安	約30a	約65a	約1ha
種もみの量	10kg	20kg	30kg
種もみ消毒時の水の量	20ℓ	40ℓ	60ℓ
種もみ消毒薬 テクリードCフロアブル200倍	100mℓ(1本)	200mℓ(2本)	300mℓ(3本)
殺虫剤 スミチオン乳剤1000倍	20mℓ	40mℓ	60mℓ
浸種時の水の量	40ℓ	80ℓ	120ℓ

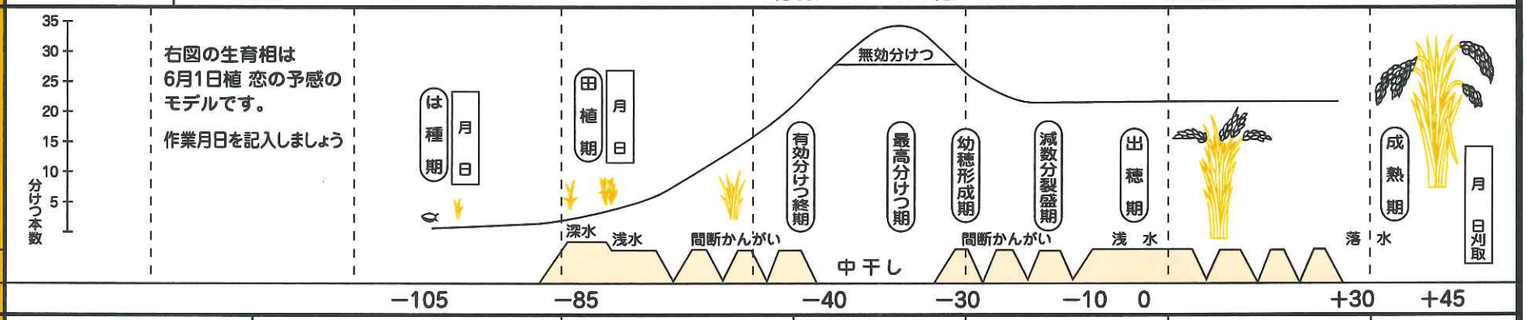
時期

10～3 | 4（上 中 下） | 5（上 中 下） | 6（上 中 下） | 7（上 中 下） | 8（上 中 下） | 9（上 中 下） | 10（上 中）

生育のめやす

恋の予感	田植 −20日 は種 ／ 出穂 −85日 田植 ／ 出穂 −24日 穂肥1 ／ 出穂 −10日 穂肥2 ／ 出穂 出穂 ／ 出穂 +45～50日 成熟期
あきろまん	田植 −20日 は種 ／ 出穂 −80日 田植 ／ 出穂 −24日 穂肥 ／ 出穂 出穂 ／ 出穂 +40～45日 成熟期
あきさかり	田植 −20日 は種 ／ 出穂 −75日 田植 ／ 出穂 −24日 穂肥 ／ 出穂 出穂 ／ 出穂 +40日 成熟期
コシヒカリ	田植 −20日 は種 ／ 出穂 −80日 田植 ／ 出穂 −18日 穂肥 ／ 出穂 出穂 ／ 出穂 +35日 成熟期

生育相



水管理

出穂前後の日数　−105　−85　−40　−30　−10　0　+30　+45

主な作業

異常気象にも強い健康な稲をつくるには、地力の増強が第一です。
冬期農閑期に有機物や土づくり肥料を施し「土づくり」に努めましょう。

基肥は、代かき前に施用。
- 代かきは、ねりすぎないように注意する。
- 植付本数は3～5本。
- 栽植密度のめやす
  恋の予感　50株以下/坪
  コシヒカリ・あきろまん・あきさかり 各50～60株/坪
- 除草剤は適期に使用する。

追肥は、田植後15～20日頃に施用。
- 赤枯症や、ガス発生防止のため間断かんがいを行う。
- ガス対策に豊土サングリーン（追肥用）を施用。5kg/10a

調節肥は、出穂前40日頃に施用。
- 根腐れ防止・根の健全化のため中干しを行う。
- 恋の予感は中干し期間を短めにしましょう。

タイプ	肥料名	施用量
中干し前に施用	マグホス	20kg/10a
	ハイグリーン	30kg/10a
	ケイ酸カリ	40kg/10a

穂肥1は、出穂前24日頃に施用。

穂肥2は、出穂前10日頃に施用。
- 出穂前後の病害虫防除を行う。

- 食味低下になるので出穂後は追肥はしない。
- 早期落水は、品質低下になるので適期落水を行う。

- 適期刈取の励行。
- 乾燥・調製は正しく入念に行う。

土づくり肥料施用例（10a当りkg）

肥料名	施用量(10a当り)	備考
牛ふん堆肥	700～1,000kg	春先までにすき込む。
ミネラルG	100～200kg	ごま葉枯病の発生する秋落田。
ケイカル	100～200kg	砂地浅耕土で秋落ちしやすい、いもち病の発生しやすい水田。
土楽園	60kg	りん酸、加里、けい酸、苦土、鉄が一度に補給できる省力型土づくり肥料。
ようりん	20kg	活着促進。分けつが増え、茎葉が強くなる。窒化が少ないので判取後・春耕起どちらでも使用可能。

稲わら腐熟促進資材（10a当りkg）

資材名	施用量(10a当り)	備考
わらゴールド	30～60kg	セルロース分解菌を主体としたFN23により分解を促進。
石灰窒素	20kg	石灰のアルカリ効果と窒素で分解を促進。
しまなみ有機	60kg	ぼかし型肥料で、土壌有益菌を多量に増殖させているので、わら腐しとしても使える。全有機
アグリ革命細粒	2kg	酵素の力で稲わらを分解。省力タイプ。

農薬は正しく安全に使いましょう

- 散布当日は健康状態に注意しよう。
- 使用する農薬のラベルをよく読もう。
- 服装に注意しよう。
- 涼しい時を選んで散布しよう。
- 長時間の散布はさけよう。
- 散布後は石鹸で顔や手足をよく洗い、うがいをしよう。
- めまい、吐き気など感じたら必ずお医者にかかろう。
- 農薬専用の保管庫に収納し、必ずカギをかけよう。
- 散布時には風向きに気を付け、近くに家があるときは一言かけて。

防除体系

（圃場にあったものを選択）

種子消毒（チランダイセン／もみ枯細菌病 いもち病 ばか苗病）
スミチオン乳剤 ＋ テクリードCフロアブル
24時間浸漬
200倍 1000倍 （ 月 日）

苗立枯病（フザリウム菌 ピシウム菌 リゾープス菌 トリコデルマ菌 ガリウム菌）
タチガレエースM液剤 ＋ ダコレート水和剤
500倍 1000倍 （ 月 日）

箱処理剤（移植3日前～移植当日）
フルターボ箱粒剤
50g/箱 （ 月 日）

箱処理剤（緑化期～移植当日）
ドクターオリゼプリンス粒剤10
50g/箱 （ 月 日）

粒剤体系

ゴウケツモンスター粒剤（出穂14～21日前／収穫45日前まで）
いもち病・紋枯病・穂枯れ・ウンカ類・カメムシ類・ツマグロヨコバイ
3kg/10a （ 月 日）

スタークル粒剤（又は豆つぶ剤）（出穂7日前／収穫7日前まで）
ウンカ類・カメムシ類
250g/10a 3kg/10a （ 月 日）

発生時防除

ブラシン粉剤DL（収穫7日前まで／いもち病発生時）
いもち病・紋枯病・穂枯れ・ごま葉枯病
3kg/10a （ 月 日）

トレボン粉剤DL（収穫7日前まで）
ウンカ類・カメムシ類・イナゴ類・コブノメイガ
4kg/10a （ 月 日）

稲こうじ病対策

モンガリット粒剤（出穂21日前／収穫45日前まで）
稲こうじ病・紋枯病
3～4kg/10a （ 月 日）

バダントレバリダビーム粉剤DL（収穫21日前まで／出穂期5～7日）
いもち病・穂枯れ・ウンカ類・カメムシ類・イナゴ類・ツマグロヨコバイ・ニカメイチュウ
3～4kg/10a （ 月 日）

ビームスタークル粉剤5DL（収穫7日前まで／出穂期後5～7日）
いもち病・穂枯れ・ウンカ類・カメムシ類・イナゴ類・ツマグロヨコバイ・ニカメイチュウ
3～4kg/10a （ 月 日）

農薬散布後7日間は、落水・かけ流しをしないで下さい。

※ゴウケツモンスター粒剤を使用する場合は、モンガリット粒剤を散布する必要はありません。

除草剤使用基準

日数　代かき −7日　田植 +0日　+5日　+10日　+15日　+20日　+25日

＊体系処理は①か②のどちらかで行なってください。

体系処理
① 初期剤処理（植代後～移植7日前まで）→ ＊初期処理剤（下記の剤から1つ）・サキドリEW・シング乳剤 → 体系処理剤適期
＊体系処理剤（下記の剤から1つ）・サラブレッドKAI（粒剤・フロアブル）・シロノック（粒剤・Lフロアブル）・バットフルエースLジャンボ・アピログロウMXジャンボ
② ＊除草剤使用後7日間は、落水や掛け流しを行わないでください。 → 初期剤適期（移植後） → 体系処理剤適期

一発処理
田植 +3日 ～ +12日
＊登録内容を確認の上使用してください。
一発処理適期
：移植時～（サラブレッドKAI（粒剤・フロアブル）・シロノック（粒剤））
：移植後1日～（バットフルエースLジャンボ）
：移植後3日～（シロノック（Lフロアブル）・アピログロウMXジャンボ）

初期剤（ 月 日）　体系処理剤・一発剤（ 月 日）

畦畔雑草対策

グラスショート液剤（ 月 日）
300～500mℓ/10a（水50～100ℓに溶かす）
草刈り後10日～20日の雑草
再生初期（雑草草丈10cm程度）
※雑草茎葉散布
3回まで

中後期（発生に応じて使用）

藻類・ウキクサ対策
モゲトン粒剤（ 月 日）
2～3kg/10a
発生初期
（収穫45日前まで）
※湛水散布
3回まで

ヒエが残った場合
ヒエクリーン1キロ粒剤（又は豆つぶ剤）（ 月 日）
1kg/10a（豆つぶ剤 250g/10a）
移植後15日～ノビエ4葉期
（収穫45日前まで）
※湛水散布
1回まで

ヒエ以外の雑草が残った場合
バサグラン粒剤（ 月 日）
3～4kg/10a
移植後15～55日
※落水散布（収穫60日前まで）
1回まで

クサネム対策
ノミニー液剤（ 月 日）
1回まで
50～100mℓ/10a
水100ℓに希釈し、落水状態でクサネムに散布する。
移植後30日～クサネム丈40cm以下（収穫60日前まで）

ヒエおよび広葉雑草が残った場合
サンバンチ1キロ粒剤（ 月 日）
1kg/10a
移植後15日～ノビエ3.5葉期
（収穫60日前まで）
※湛水散布
1回まで

クリンチャーバスME液剤（ 月 日）
1000mℓ/10a
（水70～100ℓに溶かす）
移植後15日～ノビエ5葉期
（収穫50日前まで）
※落水茎葉散布
2回まで

施肥設計例（10a当りkg）

		基肥（ 月 日）	追肥（ 月 日）	穂肥1（ 月 日）	穂肥2（ 月 日）
恋の予感	基肥一発	JB 恋の予感 60kg または ピカイチ302L 40kg	※肥持ち・水持ちが悪い圃場は、肥料を1割程度多めに施用		
	分施型	い～ね403改 30kg	い～ね403改 10kg	い～ね707改 15kg	い～ね407改 10kg
		こだわり米基肥 60kg		こだわり米穂肥 35kg	
あきろまん	基肥一発	セラコートRワン 50kg			
	分施型	こだわり米基肥 40kg	こだわり米基肥 20kg	こだわり米穂肥 20～30kg	
あきさかり	基肥一発	JBあきさかり502 35kg			
	分施型	い～ね403改 35kg	い～ね403改 15kg	い～ね707改 10kg	い～ね707改 5kg

		基肥（ 月 日）	穂肥1（ 月 日）
コシヒカリ	基肥一発	JBコシヒカリ 40kg	
	分施型	コシヒカリ用884 35kg	NK−C54 15kg

※農業内容はH29. 10月末現在の登録情報を参考に作成しています。 無断転載禁止！